

全国における重篤事故とその推移

全国における令和7年度の重篤事故(死亡又は6ヶ月以上の入院)の件数は、44件で前年度より8件も増加いたしました。そのうち死亡が28件、入院16件とそれぞれ増加しており、過去5年間で最多となりました。依然として、植木の剪定、伐採中における墜落・転落事故が多く、憂慮すべき事態となっております。

(重篤事故＝死亡又は6ヶ月以上の入院)

区 分	就 業 中			就業途上			総 件 数		
年 度	死 亡	入 院	小 計	死 亡	入 院	小 計	死 亡	入 院	合 計
令和3年度	20	7	27	6	6	12	26	13	39
令和4年度	15	4	19	5	5	10	20	9	29
令和5年度	17	8	25	6	5	11	23	13	36
令和6年度	15	7	22	11	3	14	26	10	36
令和7年度	23	12	35	5	4	9	28	16	44

(1)就業中の事故

上記の就業中における事故のうち、墜落・転落による事故が17件発生しており、事故全体の約5割を占めております。報告書では、保護帽、墜落防止器具等を着用していれば、死亡等の災害に至らなかった可能性もあり、安全帽等の着用の徹底が求められています。

(2)就業途上の事故

就業途上の重篤事故は9件であり、うち4件が徒歩による事故となっております。何れも道路横断中の安全確認不足が最も大きな原因とされています。また、9件中5件が女性会員であり、帰宅時の油断や注意力の低下が事故に繋がっている傾向であると報告されています。当センターにおいても平成21年8月に女性会員が点滅信号交差点で車と衝突する事故が発生しており、尊い命が失われました。会員の皆様におかれましては、交通ルールを遵守するとともに道路横断時の安全確認の徹底や安全意識の向上が肝要であります。

全国統一安全就業スローガン

令和8年度～令和10年度の全国統一安全就業スローガンが決定されました！

『声掛けは 仲間を守る いのち綱』

『7月は全国安全適正・就業強化月間』



熱中症にご注意



1. いつもと違うと思ったら、熱中症を疑いましょう！

何かおかしい！？

あの人、いつもと様子がおかしい！



手足がつる

立ち眩み・めまい

吐き気



イライラしている

フラフラしている

呼びかけに反応しない



作業中の場合、直ちに作業中止！周囲の人や現場責任者に申し出る！

2. 熱中症の症状と重症度分類



重症度Ⅰ度

- ・意識ははっきり
- ・手足のしびれ
- ・めまい、立ち眩み
- ・筋肉のこむらがえり
- ・吐き気



- ・身体を冷やす
- ・水分と塩分の補給
- ・涼しい場所、見守り
- ⇒改善しなければ医療機関へ



重症度Ⅱ度

- ・イライラする
- ・頭痛
- ・倦怠感
- ・虚脱感
- ・嘔吐



- ・水分・塩分補給
- ・涼しい場所へ移動
- ・衣服等緩め体を冷やす
- ⇒水分が摂取できなければ医療機関を受診



重症度Ⅲ度

- ・おかしい言動
- ・意識がない
- ・けいれん発作
- ・身体が熱い
- ・まっすぐ歩けない



119
直ちに
救急車

- ・涼しい場所へ移動
- ・衣服等緩め体を冷やす
- ・積極的に冷却
- ・水をかけ全身を急速冷却



3. 気をつけるべきポイント

のどが渇いてなくてもこまめに

水分・塩分を補給 しましょう！



1日あたり
1.2L
を目安に